

天上の収容所

森野 水琴

天上には特別な収容所がある。地上で文化財を破壊した者が死後に入る収容所である。直接破壊した者は当然であるが、命令した者も入れられる。毎日、天上の文化財の手入れをして、文化財を大切に作る気持ちを教え込まれる。

ある程度手入れが出来ると、自分が破壊した文化財の跡地に戻される。死者からは地上の人が見えるのだが、地上の人からは死者は見えない。意思の疎通をはかるにも、話す能力も書く能力も罰として奪われている。

来る日も来る日も文化財の復旧に専念する。復旧したら永遠に手入れすることになる。既に死んでいるのだから、生まれ変わることもなければ、もう一度死ぬこともない。

地上の人たちの生きる姿が見えるばかり。生き生きした声が聞こえるばかり。地上の人たちが死者の名を呼ぶことはない。名を忘れたというよりは、呼ぶのもおどましいかのようなのである。

忘れるはずがない
決して ゆるさない